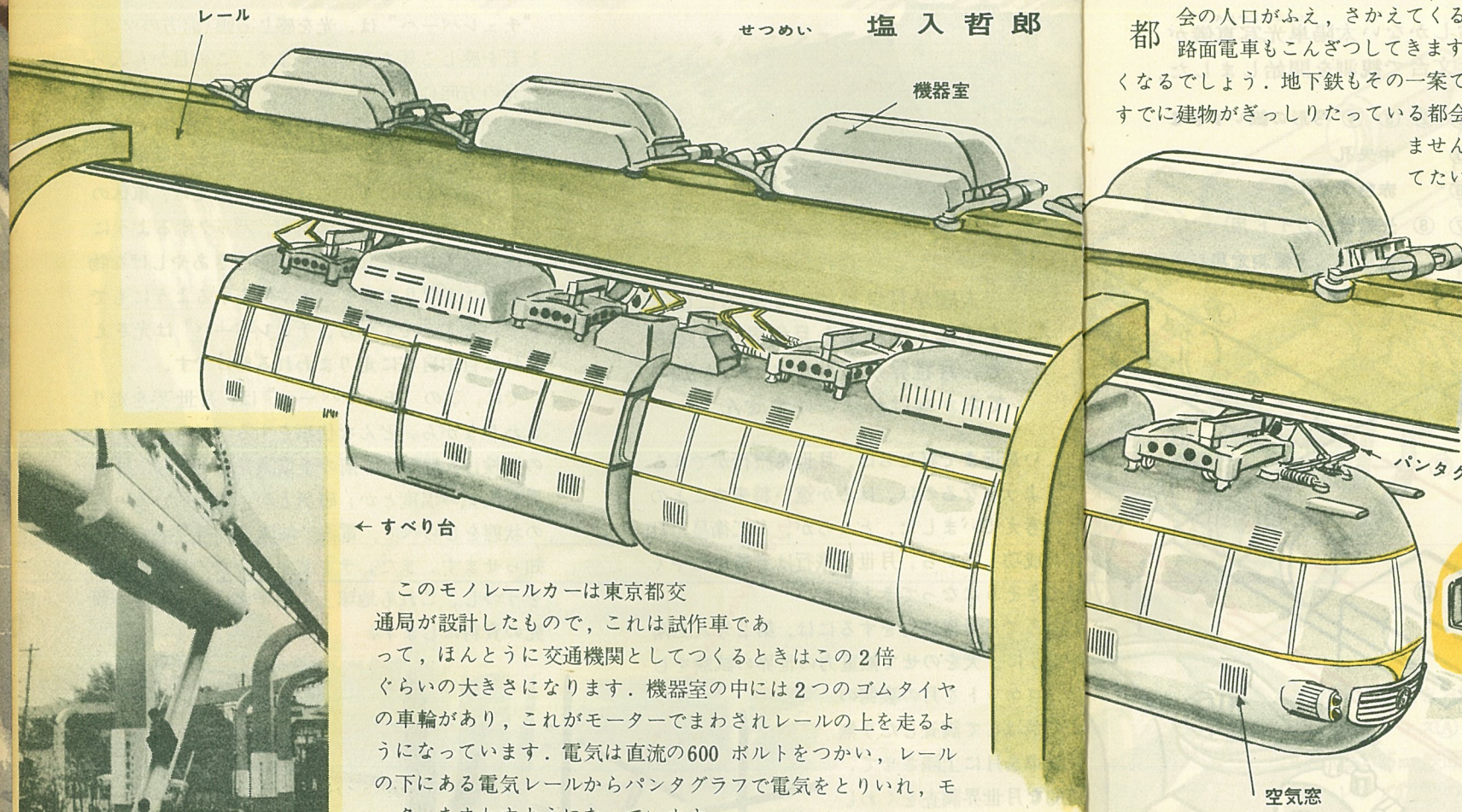


東京の上野動物園の中に、1本レールの電車ができあがりました。1本レールといっても、図のようにレールが上にあり、その下に電車をぶらさげるようなもので、これは将来へのころみです。

これからの高速電車 モノレールカー

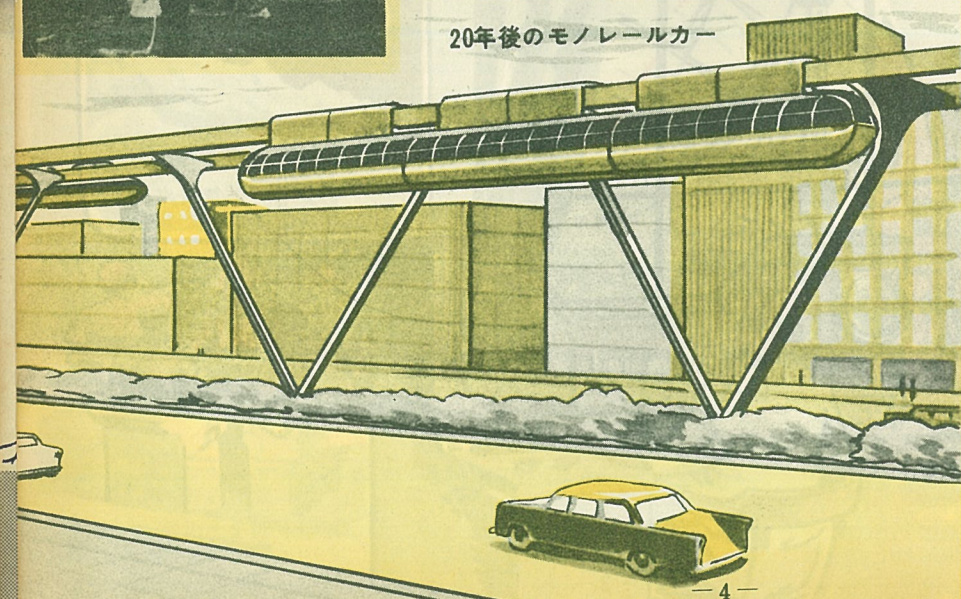
せつめい 塩入哲郎



← すべり台

このモノレールカーは東京都交通局が設計したもので、これは試作車であって、ほんとうに交通機関としてつくるときはこの2倍ぐらいの大きさになります。機器室の中には2つのゴムタイヤの車輪があり、これがモーターでまわされレールの上を走っています。電気は直流の600ボルトをつかい、レールの下にある電気レールからパンタグラフで電気をとり入れ、モーターをまわすようになっています。

20年後のモノレールカー



右の図は、今ある道路にモノレールを建設した場合で、左は幅ひろい道路に、グリーン・ベルトがあり、そこにモノレールカーを建設したときの新しい都市の想像図です。

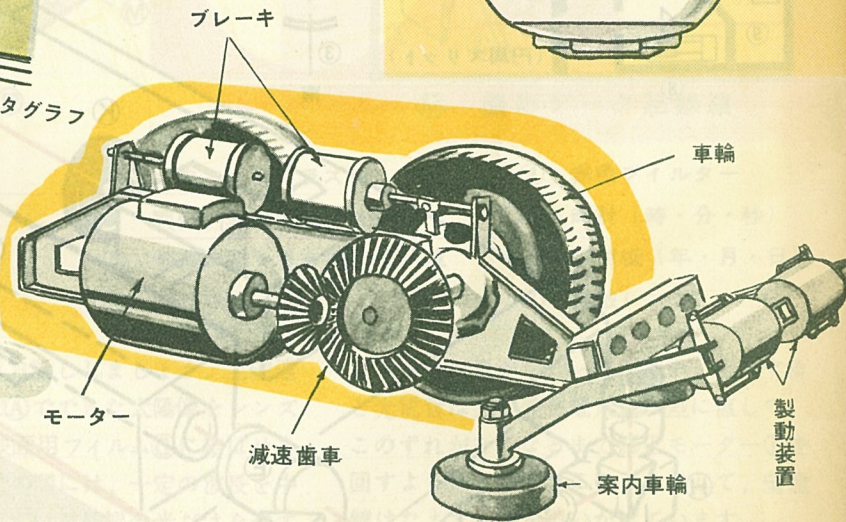
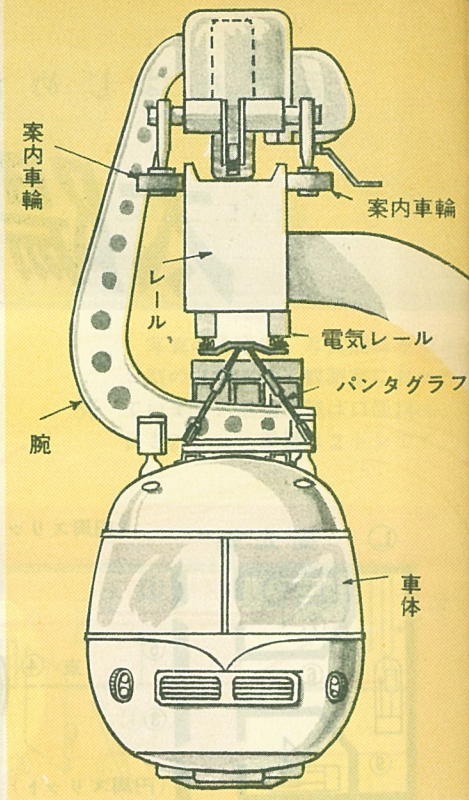
このようなモノレールカーは、1903年にドイツではじめて実用されたもので、アメリカではまだ実用になっていません。

日本の都市にこれが走るとの間近でしょう。

都会の人口がふえ、さかえてくると、自動車の交通量もふえ、路面電車もこんごつてきます。どうやったら交通地獄がなくなるでしょう。地下鉄もその一案です。高架電車もよいですが、すでに建物がぎっしりたっている都会に新しく建設することはできません。地下鉄は費用がかかりすぎたいへんです。

そこで考え出されたのが費用が地下鉄のようにかからないで、道路の上にもかんたんにできてのり心地のよいモノレールカーです。

せまい道路にもできるモノレールカー



腕によってぶらさがっているため、車体が左右にふれます。そのふれをなくすためにゴム車輪でできた案内車が写真と図のようについています。また、万一の事故にそなえて、空中にある車体から地上におりるすべり台が車体の底についています。

車体の長さは9m、幅1.63m、高さ1.9m、定員30~40名で、窓はあかないようになっているので、車体の横には空気窓がついていて、車内の空気をきれいにします。



できあがったモノレールカー